

# アセスメント記録(5領域)

事業所名: ○×こどもデイ

サービス: 児童発達支援・放課後等デイサービス

児童氏名: 山田 太郎(やまだ たろう)

生年月日: 令和2年5月14日(6歳)

実施日: 令和8年3月20日

種別: 初回

領域	現状	課題	支援の方向性
1 健康・生活 生活リズム / 身辺自立	排泄は概ね自立。食事は偏食があり、初めての食材は口にしないことが多い。睡眠リズムは安定している。	苦手な食材への抵抗が強く、食事場面で席を離れることがある。	少量から段階的に提示し、食べられた成功体験を積む。視覚的なスケジュールで見通しを持たせる。
2 運動・感覚 粗大・微細運動 / 感覚	走る・跳ぶなどの粗大運動は活発。一方でハサミ・ボタンなど指先の細かい操作に苦手さがある。	大きな音や予期しない接触到過敏で、活動から離れてしまうことがある。	微細運動はあそびの中で段階づけて提供。感覚過敏には事前予告とクールダウンの場所を用意する。
3 認知・行動 注意 / 切り替え	好きな活動への集中は高い。色・形のマッチングなど見て分かる課題は得意。	活動の切り替え時に気持ちが乱れやすく、終わりの理解に時間がかかる。	タイマーや絵カードで「あと何分」「次は何」を視覚化し、見通しを持って切り替えられるようにする。
4 言語・コミュニケーション 表出 / 理解	二語文～三語文での要求が出てきた。簡単な指示は理解できる。	気持ちや困りごとを言葉で伝えるのが難しく、行動で表すことがある。	要求カード・気持ちカードを併用し、言葉とあわせて伝える手段を増やす。代弁してモデルを示す。
5 人間関係・社会性 対人 / 集団	大人との一対一の関わりは安定。並行あそびが中心で、特定の友だちに関心を示し始めている。	順番を待つ・物を貸し借りする場面でトラブルになりやすい。	小集団あそびで「貸して」「どうぞ」のやりとりを支援者が仲立ちし、成功場面を増やす。

保護者の困りごと・願い	「集団に入ると指示が通りにくく、就学に向けて落ち着いて活動できるようになってほしい」「気持ちを言葉で伝えられるようになってほしい」とのご希望。家庭では切り替えの難しさに困っているとのこと。
総合所見	全体に得意・不得意の差が大きく、視覚的な手がかりがあると力を発揮しやすい。当面は「見通しを持った切り替え」「言葉以外の伝達手段の獲得」「小集団でのやりとり」を重点とし、本人の成功体験を軸に支援を組み立てる。次回モニタリングで進捗を確認のうえ、個別支援計画に反映する。

作成者 鈴木 健太 (児童発達支援管理責任者)

印

※ 記入例(サンプル)です。事業所名(○×こどもデイ)・法人名(株式会社○○ケア)・所在地・指定番号・各種番号はすべて実在しない架空のものです。